



プロバスだより

第324号

2022年11月10日発行

編集・発行：情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2022～2023年度 テーマ

プロバスライフを元気に楽しむ すこしずつ動きだそう

第 324 回 例会

日 時 令和 4 年 10 月 13 日 (木) 12:00～14:45

場 所 八王子エルシィ

出席者 38 名 出席率 79%

(会員総数 51 名 欠席 10 名、休会 3 名)

1. 開 会 土屋例会副委員長

第 324 回例会開催を告げ、配付資料の確認が行われた。

2. 会長挨拶 池田会長

いよいよ 11 月の全日本プロバス協議会総会・全国大会が近づきました。

コロナ状況もやや落ち着いたように見えますが、なお慎重に対処していく積りです。



実行委員会の皆さんが 2 年に亘って綿密な企画を練り上げてこられた大事な行事、ホストクラブの私たちは全員参加で、全国からお見えになるプロビアンの方を笑顔でお迎えしたいと思います。ご協力よろしくお願い致します。

9 月の例会でシニアダンデーズの CD を頂戴しました。個性的なメンバー構成にもかかわらず、穏やかなハーモニーと選曲で心和みます。後半の田中三佐代さんの「落葉松」も素晴らしく感動しました。皆さんの長年のご苦勞を思い、会員一同を代表して御礼申し上げます。

幹事の寺山さんがご家族の看病のために残念ながら休会となりました。会員委員長などクラブのためにご尽力いただいたことに感謝致します。当面は理事のメンバーが代行または兼任で幹事役を務めますので皆様のご理解ご協力をお願い致します。

卓話として八王子観光コンベンション協会の専務理事から、地域奉仕委員会の活動として「いちよう祭り」のお話も伺います。いい秋になりますように。

3. お客様紹介

八王子観光コンベンション協会

専務理事 廣瀬 勉様

八王子いちよう祭り実行委員会 瀬川 科子様

4. ハッピーコイン披露

持田副会長からハッピーコイン 21 件の披露がありました。(4 ページに掲載)

5. パースデーカード贈呈

10 月誕生日を迎えた立川会員、矢島会員、大野(幸)会員、土井会員、古川会員、岡本会員、戸田会員、山口会員、丸山会員にパースデーカードが贈られました。

なお、矢島会員が卒寿を、大野(幸)会員が米寿を迎えられ、お祝い品が贈られました。



写真左から岡本、山口、土井、立川会員・会長

6. 10 月のラッキーチャンス

今月のラッキーチャンスの当選者は、橋本会員、山口会員、河合会員でした。

7. 卓 話

「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを
紡ぐまち八王子」

講 師 八王子観光コンベンション協会

専務理事 廣瀬 勉様

卓話はパワーポイントにより、八王子観光コンベンション協会の事業、MICE 事業への取り組み、日本遺産を生かした誘客の促進などについて詳細なお話を頂いた。以下、配布された資料等からお話の要点のみを掲載した。



◎八王子の観光事業を担う組織の変遷

昭和 32 年に八王子観光協会が設立され、平成元年に社団法人として衣更え、さらに平成 29 年に現在の「公益社団法人・八王子観光コンベンション協会」となり、今日の組織活動があるとのこと。

◎事業活動方針

(1)MICE 事業の積極的な誘致

企業や団体の会議、研修旅行、展示会、イベントなどの“催し”を誘致し、観光などもからめる新しいビジネススタイルとしての MICE 事業を積極的に展開する。

この拠点施設として、今年の 10 月に「東京多摩産業交流センター」（東京多摩未来メッセ）がオープンした。

この施設を拠点として、今後①Meeting（ミーティング）～企業主催の会議やセミナーの開催。②Incentive Teur（インセンティブツアー）～研修・報奨・招待旅行。③Convention（コンベンション）～学会（学術会議）・公的機関や各種団体の会議・国際会議など。④Event・Exhibition（イベント・エキシビジョン）～イベント・展示会・見本市の開催……などが期待される。

同時に開催地としての八王子の魅力を体感・発信進めることが可能となる。

(2) 日本遺産を生かした誘客の推進

八王子市は 2022 年 6 月 19 日に日本遺産に認定された。

日本遺産は地域の歴史的の魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。

このストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形・無形の様々な文化財群を、地方が主体となって総合的に整備・活用し、国内・国外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。（全国で 104 件が認定されている。）

●八王子の日本遺産のストーリー

タイトルは「霊気満山高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語」～

養蚕や織物を基盤として発展し、「桑都」と呼ばれた八王子。この桑都の物語は、北条氏照が八王子に居城を築いたことから始まり、霊山・高尾山への人々の祈りが、この地に育まれた豊かな文化を未来へと紡いでいく物語。そして八王子を彩る構成文化財は 29 件にも及んでいる。

- ・国史跡・八王子城をはじめとする北条氏照ゆかりの史跡等が 6 件。
 - ・高尾山及び薬王院の信仰に関する文化財が 11 件。
 - ・桑都の歴史の中で育まれた伝統文化は 12 件。
- など、合計 29 件の有形・無形の文化財から構成されている。

◎観光コンベンション事業

- ・観光に関するイベントの開催、観光情報の収集・宣伝
 - ・刊行物の発行による観光の普及啓発により外国人観光客の誘致事業
 - ・都市間交流事業の推進
 - ・夕やけ小やけふれあいの里の管理運営
 - ・インフォメーションセンター・高尾山口観光案内所などの運営
 - ・観光資源の保護開発、観光施設の整備
- など、多岐にわたる事業推進を行っている。

8. 各委員会活動報告

(1) 情報委員会

河合委員長

・プロバスだより第 323 号をお届けしました。今月号は 9 月例会の磯村先生の卓話を収録、宇宙の学校のレポートなど、6 ページ建てとなりました。

・9 月のホームページへのアクセス件数は 372 件でした。引き続き分かり易い情報発信に努めたいと思います。

(2) 会員・研修委員会

杉山委員長

本日 10 月例会での卓話と 11 月例会予定の卓話の

趣旨は、11月24日の全国総会を前にして、改めて地元八王子について復習する学習の機会として設営してあります。どうぞよろしくお願い致します。

次に、研修委員会PJの「老年研究会」につきましては、9月29日の第一回が無事終了いたしました。講師の平川病院長のお話は、当日参加の皆様の期待に充分応えてくれたものと確信しております。本日は10月27日の第2回「老年研究会」のご案内を会員ボックスにお入れしておきましたが、会場が八王子駅前の学園都市センターに変わりますのでご注意ください。奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします。

(3) 地域奉仕委員会 馬場委員長

- ① 小・中学校音楽祭(仮称)の準備状況について
 - ・本例会後にいちょうホールの予約金の払い込みを予定。
 - ・出場を予定している吹奏楽系5校間の連携協力が動き始めました。
- ② 「生涯学習サロン」事業の終了について、26期の参加応募者(46名)と24~26期の外部講師(7名)及び近隣の日野・多摩の2クラブに対し、10月中に連絡する。
- ③ 11月19~20日の「いちょう祭り」への応援参加については、飯田副委員長が取りまとめているのでご協力ください。なお、本席に「八王子いちょう祭り実行委員会」の事務局から瀬川科子様がお見えですので、いちょう祭りのPRをお願いします。

(4) 交流担当 一瀬理事

「東京八王子2022」について、現在全国の参加予定各クラブから確定した参加者名と会費の納入をお願いしているところです。本日当クラブの皆様からも会費を徴収させていただきました。皆様には基本的には全員参加ということで是非お願いしたいと思います。

財政面の観点から八王子観光コンベンション協会のMICE助成金制度への応募申請をしています。本日その協会の専務理事から卓話をいただきました。条件さえ揃えばかなりの助成が見込めそうです。

また懇親会会場持ち込み用の酒類も皆様から沢山頂いています。受付はびおらにて継続いたしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

大会交流会では「わがプロバスクラブ」というテ

ーマで3クラブからのプレゼンを予定していますが、時間の関係上その他のクラブは誌上参加の形をとることとし、その資料のためのアンケート調査を行い、現在まとめ中です。

残り1か月となりましたが、事前の準備や当日の役割分担についても個々にお問い合わせいただけますのでよろしくご協力ください。

(5) 宇宙の学校 下山邦夫 PL

「宇宙の学校」の下山です。現在、「宇宙の学校」の運営はスムーズに運んでいます。これは偏にプロバスクラブの皆様の積極的な応援があればこそのことです。

今年はコロナ明けで慎重な計画であったこともありますが、スタートしてから2件の追加事業があり、これに対応してプロバスクラブのお力を発揮して頂きました。1件は市の科学教育センターの要望に応じて、夏休み期間中の事業を担当し、延べ3日間の教室を開催した事があります。

2件目は10月2日の宇宙の学校で、当初確保した八王子学園の生徒さんの日程が折り合わず、ボランティアの再募集をし、結果的には必要な人員は確保できましたが、万一に備えてプロバスクラブの皆さんに急遽参加対応をして頂きました。改めて厚く御礼申し上げ「宇宙の学校」の報告とします。

9. プロバス賛歌

10. 閉会挨拶 持田副会長

・先月、今月と例会が開催されるようになって本当に良かったと思います。今回は国も市も共に制限緩和の方向にあり、理事会においても全員一致で開催が決まりました。

・本日の卓話では八王子観光コンベンション協会の広瀬専務理事からお話を頂きました。

文化や観光などの活動を広め、八王子にたくさんの人に来てもらおう！というコンセプトで活動していることや、シンガポールをお手本にしているところがあることを知り大変興味深かったです。

・当クラブも色々な活動を復活・再開して、私たちの本来の地域奉仕や交流の場が戻ってきております。今後もWith Coronaは続きますが、当面は11月の「八王子2022」に注力して進みましょう。

ハッピーコイン

◆今年徳島へ行った子供に曾孫が生まれ1年を迎えた。4代目を迎え非常に幸せだ。Happy&Happy

濱野 幸雄

◆立川さん 91歳の誕生日おめでとうございます。あやかりたく思います。

有泉 裕子

◆何年か振りに横浜に行き良い時間を過ごすことができました。ラッキーです。

有泉 裕子

◆10月9日(日曜日)横山町公園で行なわれた「お帰りなさい Dr 肥沼バースデーフェスタ」で、シニアダンディーズの歌声は通行人が足を止め、また、会場の人々の心を一つにする合唱のすばらしさを教えてくれました。

塚本 吉紀

◆10月2日(日曜日)の八王子学園での宇宙の学校は中学3年生の修学旅行で応援スタッフの人数の件で心配をしましたが、1年生に声をかけたところ13名の応援者が出て無事に終わりました。この件では会員の皆様には大変なご迷惑をおかけしましたことをお詫びします。応援に当たった1年生の生徒の対応と熱心さに会員の皆様からお褒めの言葉を頂き、一安心しました。ありがとうございました。

塚本 吉紀

◆「80歳の壁」という本が評判です。私の90歳の壁は中々高く厚く越えるのが大変でした。やっと越えられたように思います。「心を燃やせば体はついてくる」と高名なドクターの本にありましたので信じて頑張らしましょう。

立川富美代

◆10月9日「Dr 肥沼バースデーフェスタ」に全員で出演しました。横山町公園でしたが大勢のお客様にお聴き頂きました。クラブのサポーターズの皆様や応援頂きました皆様有難うございました。もう11月の“2022八王子大会”に向けて猛練習です。

シニアダンディーズ

◆コロナも収束方向で気分が明るくなりますね。「東京八王子2022」の開催も確実になり、ハッピー。

馬場 征彦

◆2022全国会議がいよいよ近づいてきました。全会員、笑顔でお迎えしましょう。

飯田富美子

◆10月16日横浜日産グランドへ「天皇杯優勝決定戦」の応援に行きます。ヴァンフォーレ甲府と広島

の試合です。放映もされます。

飯田富美子

◆Dr 肥沼バースデーフェスタが今月9日無事にかつ成功裡に行われました。シニアダンディーズの皆さん、ご出演有難うございました。

岩島 寛

◆ベリーツェン市に Dr 肥沼の思いを叶えるために桜の木を植樹するための募金が、皆様のご協力を得て目標の300万円を達成致しました。先方も大変喜んでおり、今秋冬にも植樹に取り掛かるようです。

ご協力本当に有難うございました。岩島 寛

◆「東京八王子2022」の準備も大詰めになりました。会員の皆様全員の出席と役割分担をお願いした方々御協力を心からお願いいたします。

一瀬 明

◆出身高校サッカー部 OB を基盤としたヴァンフォーレ甲府(かくいう小生も当サッカー部出身)が天皇杯決勝へ。夢のような話でハッピー、万歳！！

一瀬 明

◆いよいよ2022総会が近づきましたね。準備の皆様ご苦労様です。宇宙の学校もスムーズに立ち上がっています。皆様ご協力ありがとうございました。

下山 邦夫

◆本日例会での卓話スピーカーには、八王子観光コンベンション協会の廣瀬勉専務理事をお招きしております。どうぞご期待ください。

杉山 友一

◆研修委員会プロジェクトの「老年研究会」第1回が終了しました。本日第2回のご案内を致しますのでよろしく願いいたします。

杉山 友一

◆ようやく後期高齢者となりました。今後ともよろしく願いいたします。結婚50年金婚式を迎えることにもなりました。So happy!

山口 三郎

◆4日前、寿大吉こと元会員下田泰造さんにお会いしました。とても元気でプロバスの皆様によるべくとのこと。来年1月例会には参加したいとのことでした。

野口 浩平

◆8月23日にホールインワンを出しました。相武カントリーでした。セルフプレーで証明する人が1名足りず、ゴルフ保険が結局出ず報告が遅れました。人生初めてで大変happyでした。

持田 律三

◆いよいよ来月八王子大会が開催されます。全国の旅行割引なども始まりやや混乱もありますが、良い方向になっています。皆さんと協力し合い、大成功させてHappyにしよう！！

持田 律三

自助・共助・公助

杉山 友一

かつて、今は亡き安倍総理の病気退任を受けて登場した菅総理が、これからの国家社会の経営姿勢は「自助・共助・公助」と発言され各方面の論議を呼んだことは記憶に新しい。後を継いだ岸田総理も基本的にはこの思想に異論はない。考えてみれば、この「自助・共助・公助」は、実は全国の各自治体が市区町村経営の枕詞として長年使ってきたもので、既に言い古された表現であり別に目新しいターゲットではない。改めて国策として掲げられたことでその意味合いが問われているということだろうと思う。

そんな思いの中で思い浮かぶ国といえば、我が国との関係が最も密な国として、折に触れて学びを重ねながら注視し続けているのが「自助・共助・公助」の国アメリカである。少し復習してみよう。アメリカの根幹は、ご案内のように 1620 年にイギリス西南部プリマスから 102 名の清教徒の急進派がメープラワー号に乗り込んでアメリカの新天地に渡り、マサチューセッツ植民地を興したことに始まる。そして、その後、イギリス本国からの干渉を嫌って 1776 年に独立宣言を遂げて基礎工事が確定する。その思想の意味するところは、アメリカンドリーム礎となる「自由主義、平等主義、個人主義、人民主義、放任主義」であり、個人の生き様が最大限保障される国造りの在りようが示されている。そして、このイデオロギーをアイデンティティとして世紀を繋ぎ発展し続けた国アメリカは、結果として基本的にはすべての分野で強い者が勝つことを是とする国である。徹底的な「自助」、それが自由主義、個人主義の根っこになっていて、そのことがアメリカ社会の実相を現下の多層構造に仕立ててきたとされる。

アメリカ人は自国が激しい競争社会、格差社会であることを否定しない。ならばそれ程に強い者勝ちの市民社会が栄える理由は一体何だろうかと疑問が湧くが、それはアメリカ社会の「共助」の有り様に目を向けると理解が進む。アメリカ人の大多数が神の存在を肯定し、またその 9 割がたの人々がキリスト教徒だということに秘密があるようだ。人間そのものは「人と神との契約」によって成り立ってい

るという考え方から、すべてはまず自分の良心に忠実であることが大事とされ、人は多様な人と人との関わりの中で生きてゆくのがだから自助と共助は一体のものとの認識の中で、国民の多くは日頃の教会活動などを通じて金額の多寡に関係なく気軽な献金活動が習慣づき、ボランティアを厭わない。実は、アメリカは世界に冠たるボランティア国家で、アメリカ人は働かない者が貧乏なのは当然という認識の一方で、勝者、成功者の社会貢献もまた飛び切り顕著で、成功者はそれぞれの立場に応じて社会貢献活動を積極的に実践する。

カーネギーホールで馴染み深いアンドリュウカーネギー（鉄鋼王）、CNN 創業者のテッドターナー、投資家ジョージソロス等々枚挙に暇なく、今時点でネットを覗いてみても、例えば、毎年アメリカの大富豪ベスト 5 入りしている投資家のウォーレン・バフェットは、保有純資産額 872 億ドルともいわれるが、その資産の 80%以上を複数の財団に寄付し社会奉仕活動をしている。かの有名なマイケルソフトのビル・ゲイツ（番付 2 位）の場合も保有純資産額 933 億ドルともいわれるが、ビル・ゲイツ財団という世界最大の慈善団体を通じて、より多くのアメリカ人が中等・高等教育の機会が得られるよう支援活動をするほか、途上国の貧困、飢餓、医療制度の改善などを支援している。アメリカという国はボランティア活動や寄付活動を通じて富を社会に還元させ、社会全体の付加価値を増大させるというシステムを定着させ今日に至っていることが理解できる。

アメリカの非営利活動法人 NPO の数を見ても、些か古くて恐縮だが手許にある 15 年前の資料でも日本の 30 倍も存在し、1 年間の寄付額は企業が 1 兆 6 千億円、個人が何と 21 兆 2 千億円に及んでいる。因みに金額ベースで日本はアメリカの 4 百分の 1 ではない。つまり、アメリカという国の「自助」の覚悟と「共助」の底力には、日本がどう逆立ちしてもその足下にも及ばないだろう。

平成、令和と失われ続けて 30 年、経済力低下が叫ばれる世界一高齢社会の国日本で、改めて「自助」を迫られ、保険制度にのみ寄りかかる「共助」の現実の中で、この国の将来に相応しい「自助」と「共助」の在り方をどう再構築していけるのか、何としても「公助」の膨張を避けたい国側の掛け声が、日

俳句同好会便り

本の未来にどんな成果を齎すのか、残念ながら我が余生ではその結末は確認できそうにもない。かつて我が国が成し遂げた高度経済成長の結果に恵まれた昭和世代としては何とも気掛かりなことではある。

八王子にも街ピアノ！ 池田ときえ

先日のことです。東急スクエアへ入ると生ピアノの音が。お！ベートーベンの「月光」3楽章だ。ホール中央の舞台にヤマハのアップライトピアノ、ジーパン姿の青年が演奏中です。足元にはリュックサックが。変わった趣向だと思いつつ力強い演奏に聴き惚れる。弾き終わると青年は頬を紅潮させて舞台から降りてきた。拍手を送る私に「ありがとうございます」と応えてくれた。いい曲をきかせていただいて、ありがたいのはこちらです。間をおかず別の青年が舞台上がる。こちらもバッグを肩にラフな服装。しばらく指慣らしをして弾き始めたのはドビュッシーのアラベスクだった。ラッキー、私の好きな曲。続いて「里の秋」のアレンジ。立ち止まって聴いていたひとりがなにやらリクエストすると、うなずいて弾き始める。いま人気の高いテレビドラマのテーマ曲だそう。ようやく気が付いた。そうか、これはだれでも弾ける街ピアノなんだと。舞台の傍らに演奏ルールの掲示板がありました。

次はベビーカーを押してきた若いお母さんと三人姉妹。三人は恥ずかしそうにもつれ合いながら舞台上がる。まず幼稚園児と思えるおチビさんがドングリコロコロを弾く。途中でつかえて降板。1年生ぐらいのお嬢さんが練習曲をふたつ。昔ならバイエルというところだが今はなんでしょう。最後に4年生ぐらいのお姉さんです。聞き覚えのあるブルグミュラーの1曲を上手に弾きました。親子5人満足そうに帰ります。

先程の青年がまた舞台へ。今度は何を聴かせてくれるのかしら。おっと、友人との約束の時間が迫ります。残念ながらピアノを後にしました。聞くとところによると、土曜日・日曜日だけ公開しているとか。八王子にもこんな素敵なスペースができたと知って、幸せ気分の日でした。ついでにひとこと。ちいさなベンチをいくつか置いてくださるとなおうれしい。

私の一句〈十月の句会から〉 河合 和郎

日常が少し戻りつつある。人が人に会えない異常事態が3年近くも続いた。ここにきて句会もようやく笑顔と笑い声が賑やかになってきた。さあ今月も生きのいい作品を紹介しよう。

「爺元気」曾孫のメール敬老日 東山 榮

敬老の日に曾孫からメールが届く。作者は卒寿の元気爺ちゃん。いつまでも元気に俳句作りを。

木犀の香り踏み踏み山の寺 矢島 一雄

墓参であろうか。花の香りの参道に行く。

「香りを踏む」という措辞が何とも詩的。

丈五尺持て余したる萩揺れて 池田ときえ

萩の生命力の強さに困惑する作者。二人して手入れし愛でた庭もだんだんと手に負えなくなってきた。

沈む日や山盧の軒の柿すだれ 田中 信昭

夕日に軒端の吊し柿が赤く染まっている。俳句の聖地「山盧邸」の一角を詠む。また句会で行きたい。

散る落ち葉転がり流る水無瀬川 下山 邦夫

季節の移ろいを水に流れる落ち葉で表現。落葉は何処へ行くのだろう。まさに冬の到来である。

秋夕やけ楽器抱へし女学生 飯田富美子

大きな楽器を抱えて家路を急ぐ女学生。私にもあんな時代があったのに……感慨にふける作者。

家族葬行かれぬ思ひ秋空へ 馬場 征彦

別れ難き思い出の数々が浮かぶ。コロナは別れの機会をも奪ってしまった。虚しかり「家族葬」。

片口におもむろ注ぐ新走り 野口 浩平

新酒を楽しむ飲兵衛さんの至福の一瞬を一句に。俳句が作れる程度が程々のようで一安心。

婆さんやお茶にしやうや日向ぼこ 河合 和郎

日常のほんの一コマ。子や孫の話。年金がまた減らされると嘆きつつ、今日も日向ぼっこの一日。

編集後記

久しぶりにプロバスだよりの編集を担当しました。やはり大変な作業です。お2人からの寄稿でピッタリ6ページに。いよいよ全国大会。力を合わせて成功させよう。 情報・有泉